

運転者のみなさんへ

交通遺児作文集

「母さん、がんばろうね」より

運転者のみなさんは、今何キロで走っていますか。

居眠り運転やわきみ運転、無理な追い越し、

または、お酒を飲んで運転している人なんていませんか。

みなさんが、最低これだけのことに気をつ

けていれば、不注意による交通事故は減り、

交通遺児も急激な増え方はしないでしょう。

このことは、お互いにとって良いことではありませんか。

「学生の役目は？」と言つと、人々は勉強

することだと答えるでしょう。それと同じよ

うに、両親の役目は子どもを育てることであ

り、運転者としての役目はというと、それは

「安全運転をすること」と「交通規則を守る

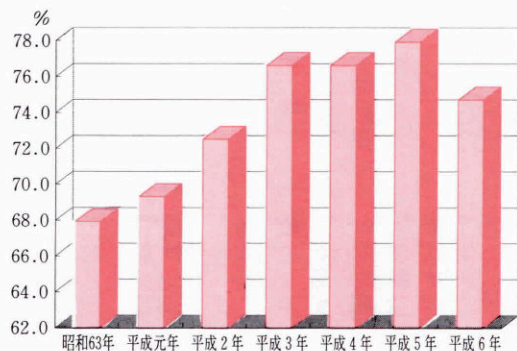
こと」ではないでしょうか。

シートベルトは命綱

昭和五十四年から平成六年までの統計を見ると、自動車乗車中の交通死者だけが増えていきます。特に、昭和六十三年から平成六年までの六年間は急増しているのです。しかも、この間のシートベルト着用率が下がっています。このことは、シートベルトの着用率と自動車乗車中の交通事故死者数とは、深い関連があることを示しています。

昭和六十一年から高速道路・一般道路を問わず、シートベルトの着用が義務づけられています。これにより着用率は向上しましたが、当初九〇%を超えていた着用率も、昭和六十三年から徐々に低下しはじめ、平成六年は八〇%台になっています。さらに、平成七年は十月までで自動車乗車中に亡くなった人のうち、なんと七二%の人がシートベルトをしていなかったことがわかりました。

仮に、亡くなった人全員がシートベルトをしていたら、そのうちの四〇%の人の命が助かったといわれています。「めんどろだ」とか「ちよつとそこままだから」などの理由でシートベルトをしない人がいますが、もう一度自分や同乗者の命の重さを考えてみたいものです。



▲自動車乗車中の死亡者のうち、シートベルトをしていなかった人の割合。(7割以上の人がシートベルトをしていなかった。)

エアバッグは補助的なもの

最近、エアバッグ装着車が増えてきます。安全性の向上に大きく貢献するものとして期待されていますが、これはあくまでシートベルトを着用していることが前提で効果がある補助装置です。エアバッグは、正面衝突では効果を発揮しますが、斜めや側面からの衝突には、その効果は下がります。

エアバッグ装着車でも、必ずシートベルトの着用を心がけましょう。

運転は ゆったりハートに
しっかりベルトに